

## 決 定 要 旨

被 審 人（住所） 東京都  
（氏名） A

上記被審人に対する平成30年度（判）第23号金融商品取引法違反審判事件について、金融商品取引法（以下「法」という。）第185条の6の規定により審判長審判官山下真、審判官城處琢也、同中馬慎子から提出された決定案に基づき、法第185条の7第1項の規定により、下記のとおり決定する。

### 記

#### 1 主文

被審人に対し、次のとおり課徴金を国庫に納付することを命ずる。

- (1) 納付すべき課徴金の額 金12万円
- (2) 課徴金の納付期限 平成31年4月22日

#### 2 事実及び理由

課徴金に係る法第178条第1項各号に掲げる事実、法令の適用及び課徴金の計算の基礎は、別紙のとおりである。

被審人は、第1回の審判の期日前に、課徴金に係る法第178条第1項第17号に掲げる事実及び納付すべき課徴金の額を認める旨の答弁書を提出しており、上記事実が認められる。

平成31年2月21日

金融庁長官 遠藤 俊英

(別紙)

## 1 課徴金に係る法第178条第1項各号に掲げる事実

法第178条第1項第17号に該当

被審人は、食品・日用雑貨品の宅配事業等を目的とし、その発行する株式が東京証券取引所マザーズ市場に上場されているオイシックスドット大地株式会社（平成30年7月1日、商号をオイシックス・ラ・大地株式会社に変更。以下「オイシックス」という。）の社員であったが、同人がその職務に関し、同社の業務執行を決定する機関が、株式会社NTTドコモとの業務上の提携を行うこと及び第三者割当による新株式の発行を行うこと並びにらでいっしゅぼーや株式会社の株式を取得して子会社化することについての決定をした旨の重要事実を知りながら、平成30年1月26日から同月29日午前7時5分までの間に、東京都内又はその周辺において、スマートフォンのメッセージアプリを用いて、Bに対し、上記各事実の公表がされる前にオイシックス株式の買付けをさせることによりBに利益を得させる目的をもって、オイシックス株式の買付けをすることを勧めたものである。

Bは、上記各事実の公表がされた平成30年1月30日より前の同月29日午後2時39分頃から午後2時40分頃の間、C証券株式会社を介し、東京都中央区日本橋兜町2番1号所在の株式会社東京証券取引所において、自己の計算において、オイシックス株式合計200株を買付価額合計56万3000円で買付けたものである。

## 2 法令の適用

法第175条の2第1項第3号、第3項第2号、第167条の2第1項、第166条第1項第1号、第2項第1号イ、ヨ、第176条第2項、金融商品取引法施行令第28条第1号、第2号

## 3 課徴金の計算の基礎

上記1に掲げる事実につき

- (1) 法第175条の2第1項第3号の規定により、当該違反行為により当該情報受領者等が行った当該買付けによって得た利得相当額に2分の1を乗じて得た額。

利得相当額とは、同条第3項第2号の規定により、情報受領者等が特定有価証券等の買付けをした場合、当該特定有価証券等の買付けについて、業務等に関する重要事実の公表がされた後2週間における最も高い価格（4,070円）に当該特定有価証券等の買付けの数量を乗じて得た額から当該特定有価証券等の買付けをした価格にその数量を乗じて得た額を控除した額。

$$\{ (4,070 \text{ 円} \times 200 \text{ 株}) - (2,815 \text{ 円} \times 200 \text{ 株}) \} \times 1/2$$

=125,500 円

- (2) 法第176条第2項の規定により、上記(1)で計算した額の1万円未満の端数を切捨て、120,000円となる。